

⑥7 早期復興を目指し、被災市街地の高台一括移転 東松島市野蒜北部丘陵地区

受賞機関 東松島市

独立行政法人都市再生機構 宮城・福島震災復興支援本部

キーワード 安全・安心、施工の工夫、
工事中搬送路を避難路へ活用

全建賞審査委員会の評価ポイント

東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県東松島市野蒜地区で、災害に強いまちづくりを目指し、高台丘陵地に被災者の移転先となる新市街地及び災害公営住宅の整備と、寸断されたJR仙石線の移設・復旧を一体的に実施した取組み。

被災市街地の再建にあたり、住宅地、鉄道等市街地機能の集団移転を一体的かつ同時期に実現した点や、丘陵地の造成にあたりベルトコンベアの活用による土工事の加速化を図った点、さらにベルトコンベア搬送路を活用した避難通路の再整備を行った点が評価された。

1. はじめに

東日本大震災で津波により壊滅的な被害を受けた宮城県東松島市野蒜地区では、災害に強いまちづくりを目指し、被災者の移転先となる住宅地の整備に加え、寸断されたJR仙石線の復旧、小学校、市民センター、福祉施設の再整備など、被災した市街地機能を安全な高台丘陵地に一体的に移転させることが急務であった。

2. 事業の概要

東松島市は、復興事業の推進にあたり、平成24年3月に都市再生機構（以下、「UR」という）と協力協定を締結、県内最大規模の高台移転事業である野蒜北部丘陵地区（以下、「野蒜地区」という）について、平成24年9月から復興市街地整備事業（被災市街地復興土地区画整理事業、津波復興拠点整備事業）及び災害公営住宅整備事業を実施した。

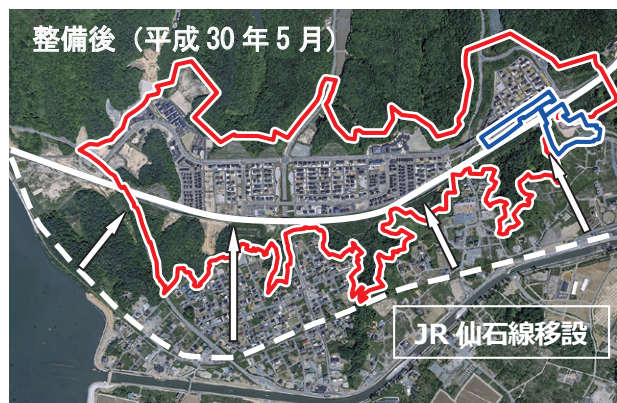
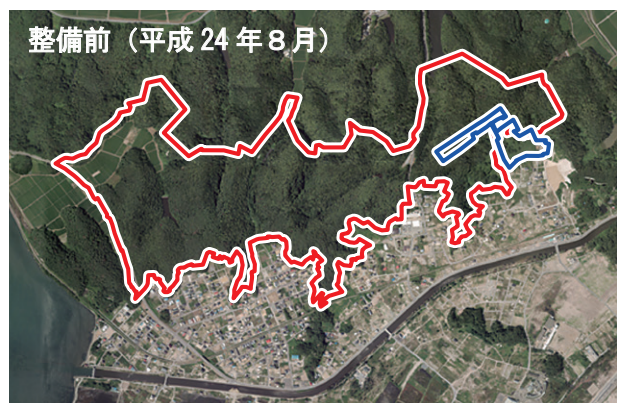
3. 事業の成果

市街地の移転先となる高台丘陵地の造成にあたっては、切土量が約550万 m^3 あり、うち約280万 m^3 （東京ドーム2杯分）の土砂を地区外に搬出する必要があった。

通常の10tダンプトラックを使用した場合、約40ヵ月（1,600台/日搬出）を要するため、JR仙石線の復旧スケジュールに多大な影響を与えることから、ベルトコンベアを採用（1万 m^3 /日搬出）することで、期間を約10ヵ月に短縮した。

その結果、JR仙石線の移設・復旧を前倒して完了し、平成27年5月に被災から4年ぶりに全線が運転再開した。

被災者への住宅地の引渡しは約3ヵ月前倒し、平成28年11月に278画地全て引渡しを完了した。災害公営住宅は平成29年8月に引渡・入居を完了した。



整備前後の状況

（凡例 □ 土地区画整理事業区域 □ 津波復興拠点整備事業区域）

また、同年1月に宮野森小学校が開校し、震災後に仮設校舎に入学した児童が、卒業までに新校舎に移転することが可能となった。

さらに、ベルトコンベアの搬送路としてJR仙石線をアンダーパスしていたボックスカルバートを活用し、野蒜地区内外を結ぶ連絡通路として、また津波発生時の避難通路として再整備した。

4. おわりに

東松島市、地元住民、JR東日本、UR、共同企業体が協力し、完了した野蒜地区の復興事業は、約9割の再建が進み、良好な市街地が形成されている。

賛助会員 (株)エイト日本技術開発、佐藤工業(株)、大成建設(株)、(株)フジタ